

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	建築計画2 (Architectural Planning 2)		
ナンバリングコード	L20402	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	必修		
授業コード	L040251	クラス名	-
担当教員名	木村 智、島岡 成治		
履修上の注意、 履修条件	特にありませんが、建築の設計を行うための不可欠の知識を講義します。特に美術館及び学校についての講義は、それぞれ設計製図3の第2課題、設計製図4の第1課題に先行して行うので、講義内容を反映させて設計演習に取り組む意識が大切です。また、実際の建築空間で学んだ内容を確認することが大切です。すぐれた建築作品をできるだけ見学することを勧めます。		
教科書	建築計画2 (鹿島出版会)岡田光正他著		
参考文献及び指定図書	コンパクト建築設計資料集成(丸善株式会社) 日本建築学会編 その他適宜指示します。		
関連科目	建築計画1、住居論、設計製図2・3・4		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	現代社会における建築の機能は様々に多様化し、いくつかのビルディングタイプを形成しています。このようなビルディングタイプのうち、事務所と博物館と学校を取り上げ、これらビルディングタイプの建築計画における基礎知識を習得し、企画・設計・維持管理における建築的技術を身につけるための基礎能力を養うことが第1の目的ですが、さらに、これからの社会にふさわしいそのあり方を思考し、提案する能力を身につけることが望まれます。
授業の概要	事務所建築、博物館建築、学校建築について、主として近代の歴史のなかで、このような建築物が形成されてきた過程を踏まえた上で、現代におけるその機能分析と空間構成の技術的方法、企画・設計・維持管理等における課題や問題点等に関する基本的知識について講義します。
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」 (2)複数担当の場合の方式 「共同担当方式」 (3)アクティブ・ラーニング 該当なし
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①各種建築物についての建築計画的な見方に関心を持ち、そのような見方を習得するよう努力することができる。			15点
【知識・理解】	②事務所建築、博物館建築、学校建築について、建築計画上の基本的知識を身につけている。 ③他の建築物についても、その建築計画上の基本的知識を習得する方法を身につけている。	45点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	④事務所建築、博物館建築、学校建築について、実物や図面を見て、その建築の建築計画的特徴を説明することができる。	5点		5点
【思考・判断・創造】	⑤さまざまな各種建築物のこれからの在り方を考える基礎力を身につけている。	5点	5点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
 毎回の講義に出席し、課題を提出することが最低条件です。
 課題及び復習テストは次回以降の授業の中で返却し、講評・解説します。
 課題及び復習テストの評価については、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。
 S:よく満たしている。 A:ほぼ満たしている。 B:一応満たしている。 C:一部分満たしている。
 また、3回あるまとめの講義の時や通常の講義において、積極的に優れた内容を発言した者は、記録して加点することがあります。

○その他
 個別の学習相談は、授業終了後もしくはオフィスアワーの時間に研究室に来てください。

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名：建築計画2 (Architectural Planning 2) 担当教員：木村 智、島岡 成治	○授業計画	科目名：建築計画2 (Architectural Planning 2) 担当教員：木村 智、島岡 成治
学修内容		学修内容	
1. 講義の目的と範囲ー建築計画における機能について 建築計画が各論として取り上げる様々なビルディングタイプは、歴史の中で形成され、求められる機能的性格は、現在も様々な社会的背景の中で、変化にさらされています。このことを踏まえた建築計画に対する基本的考え方とその講義の範囲を説明します。また、近代以降の西洋の都心部で形成、発展してきた事務所建築の歴史を概説します。		9. 博物館建築の各部計画 展示空間の計画の要点について、展示の種類や方法、巡回方式、また規模や採光や照明計画について、できるだけ実例を挙げながら説明します。講堂や図書館など研究部門や教育普及部門について、計画の要点をできるだけ実例を挙げながら説明します。	
予習：教科書(『建築計画2』)目次から住宅以外の建築種別のそれぞれの機能的特徴と主要諸室をまとめる。(約2.0h) 復習：ビルディング・タイプとその出現と変化の歴史の持つ意味について各自の考えをまとめる。(約2.0h)		予習：教科書(同上p131-141)などにより、博物館建築の部分計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、博物館建築の部分計画についてまとめる。(約2.0h)	
2. 事務所建築について 日本の事務所建築の歴史を概説し、それに伴う建築計画上の課題の変遷などを説明します。また、現在の事務所建築の種類と現代の課題、今後の方向性について、具体例を示しながら解説します。		10. 博物館建築のまとめと復習演習 博物館建築の部分計画のうち、収蔵空間について計画の要点を説明します。さらに、第6回～第9回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲について復習テストを行います。	
予習：教科書(同上p221-232)などにより、事務所建築の歴史について調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、事務所建築の歴史と現代的課題、これからの事務所建築についてまとめる。(約2.0h)		予習：これまでの配布課題によりながら、博物館建築の計画、今後のあり方について、全体的視野に立ってまとめる。(約2.0h) 復習：復習テストの結果から、必要な復習部分を確認し、復習する。(約2.0h)	
3. 事務所建築の全体計画 都市における公共性を配慮した企画とコンセプト、事務室空間のフレキシビリティ、基準階とコアシステムによる平面計画、構造計画、高層化の問題点など、事務所建築の全体計画について、できるだけ具体例を示しながら解説します。		11. 学校の運営方式と現代の学校例 現在の日本の学校の種類について説明した後、主として、小・中・高校におけるいくつかの基本的な運営方式と、近年採用されるが多くなったオープンシステムによる運営方式について、その内容と長所・短所を説明し、さらに、現代のすぐれた具体例を平面図や写真によって紹介します。	
予習：教科書(同上p232-241)などにより、事務所建築の全体計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、事務所建築の全体計画についてまとめる。(約2.0h)		予習：教科書(同上p41-48)などにより、学校建築の歴史と学校の運営方式について調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、学校建築の歴史と学校の運営方式についてまとめる。(約2.0h)	
4. 事務室空間の部分計画 オフィスレイアウトやデスクレイアウトを含む事務室空間の平面計画や断面計画、アプローチやエントランス、階段やエレベータなどの交通計画、設備計画など、個々の空間や設備について、図や写真を示しながら解説します。		12. 学校建築の全体計画ー配置計画と平面計画 学校区の計画や規模計画、さらに、校舎や運動場の配置計画を、周辺の町並みとの関係、アプローチや校舎と運動場の相互関係、運営方式との関係、さらに平面計画におけるユニットプランなど学校の全体計画について、いくつかの図を挙げながら説明します。	
予習：教科書(同上p241-253)などにより、事務所建築の部分計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、事務所建築の部分計画についてまとめる。(約2.0h)		予習：教科書(同上p48-55)などにより、学校建築の全体計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、学校建築の全体計画についてまとめる。(約2.0h)	
5. 事務所建築のまとめと復習演習 第1回～第4回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲についての復習テストを行います。		13. 学校建築のブロックプランと各部計画1 学校建築の全体計画のうちブロックプランについて具体的な図といくつかの実例を示しながら説明します。また、部分計画のうち一般的なクラスルームの他、オープンシステムにおけるオープンスペースや教材庫、教師室など周辺スペースの構成について説明します。	
予習：これまでの配布課題によりながら、事務所建築の計画、今後のあり方について、全体的視野に立ってまとめる。(約2.0h) 復習：復習テストの結果から、必要な復習部分を確認し、復習する。(約2.0h)		予習：教科書(同上p55-61)などにより、学校建築のブロックプランと教室の計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、学校建築のブロックプランと教室のについてまとめる。(約2.0h)	
6. 社会教育施設と博物館建築の歴史 まず、社会教育施設とその現代的意義について説明します。そしてあるその一つである博物館建築の主として西洋の歴史をふり返りながら、特に近代以降の博物館とはどのようなものであったかを考えます。とりわけ、美術館は、芸術のあり方そのものと結びついて変化してきたことを説明し、今後の美術館の可能性について考えます。		14. 学校建築の各部計画2 各特別教室における必要スペースと必要設備、また、交通空間やサニタリー空間の他、給食室や食堂、講堂などの生活関連施設、さらに体育館および管理諸室などについて、具体的な図といくつかの実例を示しながら説明します。	
予習：教科書(同上p112-118)などにより、博物館建築の西洋における歴史について調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、社会教育施設の意義と西洋の博物館建築の歴史についてまとめる。(約2.0h)		予習：教科書(同上p61-69)などにより、学校建築のブロックプランと教室の計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、学校建築の各部計画についてまとめる。(約2.0h)	
7. 博物館建築の歴史と近年の動向 日本の博物館建築の歴史の概要と近年の動向について説明します。特に、地域や都市の活性化に結び付いた博物館建築の近年の実例を取り上げ紹介します。また、博物館建築の種類について説明します。		15. 学校建築のまとめ 学校建築の各部計画のうち体育施設や管理諸室について具体的な図をあげながら説明します。さらに、第11回～第14回の授業内容について補足説明とまとめを行います。また、この範囲について復習テストを行います。	
予習：教科書(同上p118-126、141-145)などにより、博物館建築の日本の歴史と近年の動向について調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、博物館建築の歴史と種類についてまとめ、これからの博物館建築について考えをまとめ。(約2.0h)		予習：これまでの配布課題によりながら、学校建築の計画、今後のあり方について、全体的視野に立ってまとめる。(約2.0h) 復習：復習テストの結果から、必要な復習部分を確認し、復習する。(約2.0h)	
8. 博物館建築の全体計画 どのような博物館建築を運営・企画するかによって、その建築空間が異なることを、いくつかのタイプの実例を挙げながら解説します。また、配置計画、規模計画、動線計画や機能上の要求による空間組織などについて説明します。		16. 再試験 該当者のみ再試験を行います。試験は60分、持ち込み不可で行います。	
予習：教科書(同上p126-131)などにより、博物館建築全体計画における必要事項を調査する。(約2.0h) 復習：配布課題によって、博物館建築の全体計画についてまとめる。(約2.0h)		予習：これまでの配布課題、復習テストによりながら、事務所・博物館・学校建築の建築計画の要点を復習する。(約2.0h) 復習：試験の結果から、必要な復習部分を確認し、復習する。(約2.0h)	